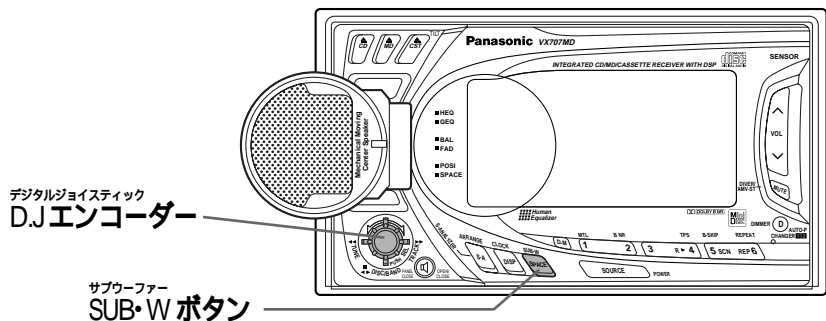


サブウーファー出力設定



設定する機能を選ぶ

デジタルダイナミックベースコントロール (DDBC)

別売のパワーアンプ (CY-M9054D等) やアンプ内蔵サブウーファー (CJ-BL100D等) をサブウーファー出力端子 (SUB・W-OUT) に接続してください。 (P.64 参照)

サブウーファー用外部アンプやアンプ内蔵サブウーファーを接続すると、本格的なハイパワーサウンドが楽しめます。

SUB・W ボタンを2秒以上押してから、D.J エンコーダーを回す。

- 右に回すと、次のように切り替わります。(左に回す：逆回り)



- ▶ DDBC LEVEL : 音量レベルを調整する (P.44 参照)
- ▶ DDBC DELAY : 出力タイミングを合わせる (P.45 参照)
- ▶ FREQ. SELECT : 高音域をカットして低音の厚みを調整する (P.45 参照)

- 調整中は DDBC インジケーターとサブウーファー出力表示部が点滅し、設定されると点灯します。

お知らせ

- 各機能が表示されている間 (約10秒間) に次の操作をしないと、自動的に通常モードに戻ります。
- DDBCは、モノラル出力です。
- SDBBの設定すると、さらに重低音の効果が得られます。(P.41 参照)

音量レベルを調整する

DDBC 音量レベル

[初期設定 : 0 dB , 調整範囲 : - dB , - 10 dB ~ + 10 dB (2 dBごと)]

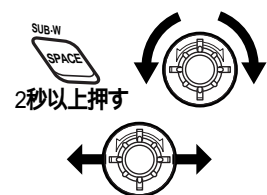
- ① 機能を “ DDBC LEVEL ” にする。

- ② D.J エンコーダーを左右に倒す。

- ◀ : レベルが下がる。
- ▶ : レベルが上がる。

- dB , - 10dB 0 dB + 10dB

- dB : サブウーファー出力端子に接続したアンプから音が出なくなる。



音の出るタイミングを調整する

DDBC ディレイ時間

車の大きさやスピーカーとサブウーファーの取り付け位置によって、スピーカー (内蔵アンプ出力) とサブウーファー (外部出力) の音が同時に出ていても、耳に届く音は距離差によりタイミングがずれてしまいます。サブウーファーの出力タイミングを調整して、音が耳に届く時間差 (ディレイ時間) をなくし、量感のある重低音を再生します。 [初期設定 : 0 ms , 調整範囲 : - 10 ms ~ + 10 ms (1 msごと) 1 ms = 0.001 秒]

- ① 機能を “ DDBC DELAY ” にする。(P.44 参照)

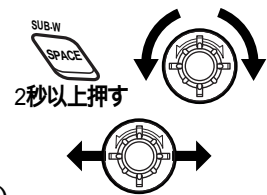
- ② D.J エンコーダーを左右に倒す。

- ◀ : ディレイ時間が短くなる。
(スピーカーよりも、サブウーファーの出力の方が早くなる。)
- ▶ : ディレイ時間が長くなる。
(スピーカーよりも、サブウーファーの出力の方が遅くなる。)

- 10 ms 0 ms + 10 ms

0 ms : スピーカーとサブウーファーの出力タイミングが同じになる。

- 調整すると、サブウーファー出力表示部が点灯します。



お知らせ

DDBCで調整したディレイ時間は、リヤースピーカーの出力にも反映されます。(P.41 参照)

高音域をカットして低音の厚みを調整する

DDBC カットオフ周波数

出力する低域周波数の上限 (カットオフ周波数) 設定で、高音域をカットします。 [初期設定 : OFF]

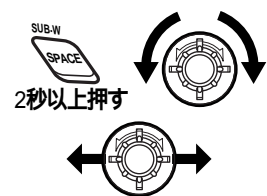
- ① 機能を “ FREQ. SELECT ” にする。(P.44 参照)

- ② D.J エンコーダーを左右に倒す。

- 右に倒すごとに、次のように切り替わります。(左に倒す：逆回り)

OFF 100 150 200 (Hz)

OFF : 高音域をカットをしない通常のモノラル出力。



お知らせ

- 別売の外部アンプに内蔵されたカットオフ周波数や位相差調整機能を使用する場合は、本機のDDBC カットオフ周波数を “ OFF ” , DDBC ディレイ時間を “ 0 ms ” にしてください。
- DDBCで設定したカットオフ周波数は、リヤースピーカーの出力にも反映されます。(P.41 参照)